

## WHO女性の健康とドメスティック・バイオレンスに関する 多国間調査・研究者会議

『ジェンダーに基づく暴力への対応：健康の公正の問題として捉える』と題された本会議は、2004年4月26日～5月1日の6日間、イタリアのコモ湖畔の街、Bellagioで行なわれた。多国間調査の第1弾としてWHOがコーディネートする『女性の健康とドメスティック・バイオレンスに関する調査』を実施した7カ国（ブラジル・ペルー・タイ・バングラディッシュ・タンザニア・ナミビア・日本）と、後からプロジェクトに加わった3カ国（セルビア・エチオピア・ニュージーランド）それぞれの研究チーム、コアチーム、WHOアドバイザー委員会から、合計22人が参加した。

会議では、各国チームの調査結果を基にした多国間研究レポートのドラフトをたたき台に、どの結果を入れるか、どのようにプレゼンテーションしたら意図が伝わるか、どのような解釈が可能かを、コアチームによるプレゼンテーションを受け、グループ・ディスカッションで細かく検討した。

この調査の企画や実施を通して学んだことを分かち合い、今後どう活かしていくかの検討にも時間が費やされた。調査員のトレーニング、暴力を受けたことを調査で話すことを促す方法、プライバシーの確保、回答者・調査スタッフ・研究メンバーに対するサポートのあり方、調査を女性のエンパワーメントにつなげる方法、調査結果をより効果的に公表する方法、コアチームと各国チームの協力体制のあり方など、多様な内容が議論された。

会議場および宿泊先の Bellagio Study and Conference Center は、1959年よりロックフェラー基金によって運営されている。16世紀にさかのぼる Villa Serbelloni は、1928年から他界するまでそこに住んだ Ella Holbrook Walker が、国際理解の促進のために利用して欲しいとの意図で寄付したという。現在では、毎年140人のレジデントの研究・芸術活動と50余りの会議に活用されているが、女性に対する暴力のように長い間黙殺されてきたテーマを扱う本会議開催の申請が認められたことは、名誉であると認識されていた。（釜野さおり記）

## 第6回アジア開発研究フォーラム大会 「開発研究を通じたアジアの凝集性」

2003年11月13日（木）～14日（金）にタイ王国バンコクの Novotel でタイ王国研究財団（TRF）主催の「アジアにおける人口変動と人口ボーナスの政策的総括」に関する中間会議が開催され、アジア各国から人口学者が集まり、予備的検討を行ったが、その最終会議としてのセッション（グループ1）を含む第6回アジア開発研究フォーラム大会「開発研究を通じたアジアの凝集性」が2004年6月7日（月）～8日（火）にバンコクの Siam City Hotel で開催された。グループ1は初日の午後開催されたが、そのプログラムは以下の通りであった。

グループ1：アジアにおける人口変動と人口ボーナス

Duangkamol Room

座長：Kua Wongboonsin チュラロンコン大学人口学部教授（副学長）

Phillip Guest ポピュレーション・カウンスル・バンコク事務所長

政策的総括論文：

"The utility of education in Thailand compared with Indonesia"

Gavin Willis Jones（シンガポール・人口持続可能な開発のためのアジア・メタセン

ター)

"Basic Skills, thinking skills, and competencies of skilled workers : a comparison of Thailand with East Asian and other Southeast Asian Countries"

Hiroshi Kojima (国立社会保障・人口問題研究所)

"Singapore's changing demographic structure and the policy implications for financial security, employment, living arrangements and health care"

Angelique Chan (シンガポール国立大学社会学科教授)

"Minimizing health problems to optimize demographic dividend"

Gerald Kost (米国カリフォルニア大学デイビス校健康システム学科教授)

"Maximizing the demographic dividend via regional cooperation in human resource development"

Patcharawalai Wongboonsin (チュラロンコン大学アジア研究所研究員)

Joannis Kinnas (ギリシャ・バイロール大学客員教授)

このセッションと2日目午前の全体会議にはタイを代表する人口学者の参加も得て、活発な議論が行われた。

(小島 宏記)

## 国際労使関係学会第5回アジア地域大会 (IIRA2004)

2004年6月23日(水)～26日(土)に韓国ソウルのオリンピックパークテルで国際労使関係学会(IIRA)主催の第5回アジア地域大会が開催され、アジア太平洋地域から労働研究者と実務家が一同に会した。同大会では労働に関する4大トラックの下でアジア地域の労働研究者・実務家による学術報告が行われたが、25日開催の第4トラック:「労働市場と労働移動」では国際労働移動が主要なテーマの一つで、午前には2つのテーマに関して国際的に著名なPeter D. Doeringer教授(Boston University)が総括報告をするとともに、国際労働移動の分野で日本を代表する研究者、井口 泰教授(関西学院大学)が“Determinants of Intra-Regional Migration and Effects of Economic Partnership Agreements in East Asia”と題された基調講演をした。午後のワークショップ4.5「国際労働移動(2)」では小島が以前の国際人口移動プロジェクトで収集されたマイクロデータ分析に基づく“Return Migration of Japanese Managers on Overseas Mission and Their Health”と題された報告をした。IIRA2004には日本人口学会会員の小野 旭教授(東京経済大学)、当研究所のプロジェクトに参加者の井口教授、神代和欣教授(放送大学)、永瀬伸子助教授(お茶の水女子大学)をはじめとする多数の労働経済学者・労使関係研究者のほか長谷川真一総括審議官をはじめとする行政官も日本から参加していた。

(小島 宏記)